

夏休みに家族で出かけてみよう！

牛久自然観察の森



牛久自然観察の森は、全国に10カ所しかない「自然観察の森」のひとつで、1990年に開園しました。約21ヘクタールの広大な敷地では、四季を通じて多種多様な生きものの息づかいを感じながら散策できます。ネイチャーセンターには自然解説員が常駐していて、牛久市周辺で見られる水辺の生きもの展示コーナー「HACOBIO」や木のおもちゃとふれあえる体験コーナー「木育ひろば「うっしっし」」(有料)を常設しています。「HACOBIO」では、大小8つの水槽にフナやカメを、水草とともに生態展示しています。木育ひろば「うっしっし」では、木の玉でできたプールや積み木などたくさんのおもちゃで遊ぶことができます。

また、牛久自然観察の森では、年間を通して様々なイベントを開催しています。夏の森は、昼も夜も昆虫達がいっぱいいます。8月は、幼児・こども向けの2つの昆虫教室、バードウォッチングのほか、夕方から夜に行われる夜の昆虫教室、星空観察会も開催されます。観察用具の双眼鏡の無料貸し出しもあるので、お弁当を持って出かけてみてはいかがでしょうか？



シャトーカミヤの災害復旧を記念して作られた木のおもちゃも！



木育ひろば「うっしっし」には木でできたおもちゃがたくさん



「森でランチ」のイベントの様子。8月はお休みで、次回は9月の開催です。

開園情報などの詳細は23ページを参照してください。木育ひろばの体験料はお一人様300円です(0歳児は無料)。



奈良の大仏が手のひらに乗ってしまう、世界一の青銅製大仏。その大きさはなんと120m。1995年に「青銅製の立像で世界一高い建造物」としてギネスブックに登録されています。敷地内には、「りすとうさぎの小動物公園」もあり、エサやり体験も可能です。

牛久大仏

出かけてみてね！



牛久沼かっぱの小径



牛久沼

牛久沼は茨城観光百選にも選ばれています。はるか富士山や筑波山を望む穏やかな水面は四季折々の表情を映し出し、皆の憩いの水辺となっています。



雲魚亭

(市指定文化財)

小川芋銭が晩年を過ごした、住まいを兼ねたアトリエ。現在は「小川芋銭記念館」として一般に公開されています。芋銭が使用していた硯や書簡などが展示されています。

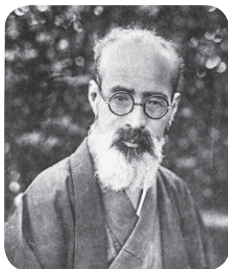
(市教育委員会写真提供)



河童の碑

(市指定文化財)

昭和27年、芋銭をしたう池田龍一らによって建てられました。碑には、かっぱの絵と「誰識古人画龍心」の文字が刻まれています。



おがわゆぜん

小川芋銭

(1868～1938) 本名は小川茂吉で、明治から昭和と活躍した日本画家。かっぱを多く描いたことから、「かっぱの芋銭」として今日も親しまれています。



牛久沼かっぱの小径

平成24年3月に完成した遊歩道で、名称は公募により「牛久沼かっぱの小径」と名づけられました。周辺の牛久市観光アヤメ園や雲魚亭などを含めたウォーキングコースとなっています。



1

情報物産館コーナーでは、地域の情報発信を行っているほか、地元の特産品・お取り揃えています。

7月21日、牛久市の姉妹都市である常陸太田市に「道の駅ひたちおおた」がオープンしました。「道の駅ひたちおおた」では、地元素材を活かしたレストランやフードコートで、気軽に旬の食材を楽しむことができます。特産物である常陸秋そばも食べることが出来ます。農産物直売所では、作り手のわかる採れたての新鮮農産物やお弁当、お惣菜を豊富に取り揃えています。

道の駅ひたちおおた〜黄門の郷〜



2 道の駅の外観

2 たくさんの地酒が販売されています

3 道の駅までの道のり

土産を豊富に取り揃えています。黄門さまグッズをはじめ、常陸太田市を代表する地酒も多数取り揃えています。コーナーの一部には、姉妹・有縁友好交流都市コーナーもあり、牛久市のワインと落花生も販売されています。お出かけの際には、ぜひ立ち寄ってみてください。



3